

# 彩の歳時記

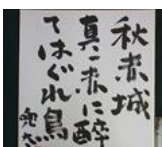
二十七年 九月

両神山 釣瓶落しを 背に止めて

金子兜太【1919〜】

「残暑が厳しい」と言っている間に夕暮れの早さに驚かされる頃です。

『秋の日は釣瓶落とし』とは釣瓶(つるび)が井戸にストンと落ちていくようにあつという間に日が沈むこと。昨今、町では「釣瓶」を見かけることは殆ど無くなり、意味を解せない人も多いようですが、秋の日の入りの速さをとてうまく言い表してあります。九月は日照時間が短く、西日が一気に沈みます。夕暮れ時、道ゆく人の歩みも心無しか速く感じるような季節ですが、心地良い夜長に「沈思黙考」するなど有意義な時間を持ちたいものです。



## 九月の暦

長月 月が長い時間にわたって綺麗に見られる月

一日 防災の日 1923年に発生した関東大震災に因み、伊勢湾台風が襲来した翌年の1960年に制定。毎年、学校や企業等で防災訓練が行われる。意識向上の為、池袋・立川・本所に防災館。

二百十日【雑節】立春から二百十日目。嵐の到来する時期、季節の変わり目である。

夏目漱石の実体験を元にした小説「二百十日」や宮沢賢治「風の又三郎」の設定で有名。

二日 宝くじの日 九二(くじ)の語呂合わせ。過去一年のはずれくじ対象のお楽しみ抽選会がある。



八日 白露【二十四節気】この日から仲秋。夜の間には冷え込み草の葉に白い露が結ぶ。

白露(しらつゆ)に風の吹きしく秋の野は たらぬき留めぬ玉ぞ散りける 文屋朝康 万葉集(百人一首)

九日 重陽の節句「九」という陽の数が重なることから重陽。古代中国ではめでたい日とされ 菊酒を飲むなどして邪気を払い長命を願った。春は桃・初夏は菖蒲・秋は菊の節句。



十九日

子規忌、糸瓜忌

夏目漱石と親交を結び俳句、短歌、新体詩、評論・随筆など日本近代文学に

多大な影響を及ぼした正岡子規【1867〜1901】の忌日。辞世の「糸瓜咲て痰のつまりし仏かな」などから「糸瓜忌」。著書に『墨汁一滴』『仰臥漫録』『病牀六尺』など。生地・愛媛県松山市に子規記念博物館。晩年の七年間を過ごした根岸に子規庵(現存・公開)。野球を愛し幼名の升(のぼる)に因み、ベースボールを「野球(のぼる)」と名づけたとの俗説に基づき、子規がよく試合を行った上野公園内に正岡子規記念野球場がある。



代表作に←

二十日 秋の彼岸(二十日から二十六日)の入り

二十一日 敬老の日 国民の祝日

二十一日 国際平和デー 「世界の停戦と非暴力の日」とし、この日は敵対行為を停止する。



二十二日 国民の休日 前日と翌日の両方を「国民の祝日」に挟まれた平日は休日

二十三日 秋分の日【二十四節気】国民の祝日。彼岸の中。昼と夜の長さがほぼ同じに。

二十七日 十五夜 仲秋の名月 旧暦八月十五日。芋名月などと呼ぶ。中国古来の風習

この日と十三夜(十月二十五日)の両日に月見をする風習がある。



## 九月の歌

秋の夜半

1910年(明治43年)

詞

佐々木信綱

中学唱歌

澄んだ秋の夜空に月が白く清らかに輝く中、雁の群が空を舞うのを眺めながら、

一人物思いにふける人物の物憂げな心境が描写されている。原曲はドイツ・

ロマン派のウェーバー【1786〜1862】のオペラ『魔弾の射手』の序曲でホルン

四重奏が奏でる名旋律部。賛美歌283番でもある。

佐佐木信綱(1872-1963)は歌人・国文学者で落合直文、与謝野

鉄幹らと短歌結社「竹柏会」を主宰、新体詩集『この花』を刊行。

昭和十二年、第一回文化勲章受賞。歌会始選者で貞明皇后ら

皇族に和歌を指導している。



秋の夜半の 夜空澄みて  
月のひかり 清く白く  
雁の群の 近く来るよ  
一つ二つ 五つ七つ  
家をはなれ国を出でて  
ひとり遠く学ぶわが身  
親を思う 思いしげし  
雁の声に 月の影に